

目的 社会の情報化が進むにつれ、各学校でもコンピュータを利用した教育が本格的に実施され、パソコンの設置台数も大幅に増加し、ハード面はかなり充実してきている。しかし、ソフト面および指導者については慢性的な不足状態が続いており、一部の教員の過重負担やソフトの画一性等の問題が生じている。特にC A I教材については量、質ともに市販ソフトでは対応できず、現場の教員自らがソフトを作成せざるをえない場合が多い。我々はこれまで家政系基礎情報教育の授業を担当し、家政系の基礎情報教育で必要とされる各種ソフトの活用およびプログラミングについて実習してきたが、今年度はC A Iソフトの作成を実習に組み込み、教育現場の現状やニーズに合わせた体験学習を試みた。

方法 C A I教材ソフトのプログラムは、簡単なものでもプログラミング知識がかなり必要になるので、まず、現在教育現場で使われているC A Iソフトを教育ネットワークシステムを利用して学生にデモンストレーション提示し、具体的なC A Iソフトづくりの手がかりをあたえ、さらに電子メールシステムによりC A Iプログラムの見本を各学生に転送し、プログラムのヒントを与えた。

結果 教育現場で使われているC A Iソフトのデモンストレーション提示は、学生にC A Iの具体的なイメージを与えることができ、電子メールで送った見本プログラムを参考にして全員がC A I教材を作成することができた。具体的なC A I教材を作成させることにより、プログラミングはもちろん教材研究や教授法についても学ばせることができた。